

【担当責任者】大沼郁子

【開講年次】1年，【学期】：前期，【必修／選択】：選択必修，

【授業形態】講義

【概要】少子超高齢社会を迎えた日本では、いままでになかった勢いで、性の観念や家族観、職業観、宗教観などが変化しています。生きる上で確固とした理想的な生き方といったものは見つけにくくなってきました。そのようななかで、人間の生や死についての関心はとても高まってきています。

死生観とは、人間の生と死をどのように把握し、どのようにこの問題と向き合うか、といった考察です。古今東西の宗教や思想家がこの問題についてさまざまな考察を行いました。この授業では、そのような死生観をふりかえり、さまざまな角度からこのテーマについて考えます。生と死に向き合う医療・看護領域の営みにも参考になる授業を目指しています。

【学習目標】古今東西の宗教や思想、神話に見る死生観を把握するとともに、その死生観の社会的歴史的背景についても理解し、さらに現代の「生と死」の問題とも関連させて考察する態度を身につけることにより、以下のことができるようになる。

- 1 各宗教、神話および思想家の死生観を文献資料や映像から把握することができる。
- 2 伝統的死生観と現代人の死についての意識とを比較し、論じることができる。
- 3 死生観の考察を通して、自己の死生観を育むことができる。

【教科書】指定しない。

【参考書】以下を参考書とする。

- 1 立川昭二『日本人の死生観』筑摩書房、1998年。
- 2 波平恵美子『日本人の死のかたち』朝日新聞社、2004年。
- 3 柳谷慶子『江戸時代の老いと看取り』山川出版社、2011年。

【成績評価方法】授業終了時のレポート（75点）と質問や意見表明などの積極的授業参加度（25点）によって成績を決定する。出席については、規定に基づき原則として、2／3以上の出席を要する。

【学習上の注意事項】さまざまな死生観について学ぶことは異文化を理解する事でもあります。いろいろと異なる立場から意見を出し合うことで、授業が積極的な議論の場となることを願っています。

科目・コース（ユニット）名：死生観の歴史【医学1】

英語名称：History of views on life and death

【授業スケジュール】

回数	年／月／日	曜日	時限	授業内容	担当教員
1	2026/4/16	木	3	（講）導入 討論方法・レポート作成方法	大沼郁子
2	2026/4/23	木	3	（講）異文化としての死生観① 世界の神話に見る生と死（１）	大沼郁子
3	2026/4/30	木	3	（講）異文化としての死生観② 世界の神話に見る生と死（２）	大沼郁子
4	2026/5/7	木	3	（講）異文化としての死生観③ 死生観と宗教（チベット仏教）	大沼郁子
5	2026/5/14	木	3	（講）死生観と宗教① （仏教）	大沼郁子
6	2026/5/21	木	3	（講）死生観と宗教② （キリスト教 旧約）	大沼郁子
7	2026/5/28	木	3	（講）死生観と宗教③ （キリスト教 新約）	大沼郁子
8	2026/6/4	木	3	（講）死生観と宗教④ （沈黙の宗教 儒教）	大沼郁子
9	2026/6/11	木	3	（講）死生観と宗教⑤ 死生観と国家(1)	大沼郁子
10	2026/6/25	木	2	（講）死生観と宗教⑥ 死生観と国家(2)	大沼郁子
11	2026/6/25	木	3	（講）死生観と宗教⑦ 看取り、死者とのつながり、悲嘆(1)	大沼郁子
12	2026/7/2	木	2	（講）死生観と宗教⑧ 看取り、死者とのつながり、悲嘆(2)	大沼郁子
13	2026/7/2	木	3	（講）死生観と宗教⑨ （イスラム教）	大沼郁子
14	2026/7/9	木	2	（講）死生観と宗教⑩ （イスラム教）	大沼郁子
15	2026/7/9	木	3	（講）総括	大沼郁子

【担当教員】

教員氏名	職	所属
大沼 郁子	非常勤講師	